

使わなくなった衣類を大調査！

名古屋大学エコトピア科学研究所 特任講師 おか やま とも こ 岡山 朋子

1 はじめに

エッセイストの酒井順子氏は、その著書「容姿の時代」で、「なにせ私達日本人は、派手な服を着ることにある種の罪悪感と、羞恥心を持っている。地味にしている、と言われればいくらでも地味にできるけれど逆は困難（以下略）」と言っています¹⁾。加えて、酒井氏を含めた「共通一次世代」の女性は、なんとなく「おしゃれよりも勉強、見た目よりも中身」的な社会的プレッシャーを感じて育った世代ではないかと思えます（ひょっとすると私だけかもしれませんが）。そもそもファッションに興味を持つこと自体に、そこはかたなく罪悪感や羞恥心を感じてしまうのです。



写真1 自宅のクローゼット



写真2 クローゼットの中

ですから、今回のテーマは、正直なところ私には難しい課題でした。特に、実際に行った自分のワードローブの中身を詳らかにするという作業は、自分が知らない自分自身を知る作業に等しく、できれば知らないままにしておきたかったというのが本音です。自分の家庭の生ごみの公表も、何を食べているか報告するようなものでそれなりに恥ずかしいのですが、それ以上に恥ずかしく感じた「衣類（のごみ）」。

改めて、ごみとはプライバシーそのものであると思い知ったのでした。

さて、前置きはこのくらいにして。本稿では、まずはそもそもどのくらいの「使わなくなった衣類」を持っているのか自己点検した結果を報告します。次にそれらの衣類について考察を交えつつ、それらをどのように始末しているのか、一個人のケースで恐縮ですが紹介します。

2 クローゼット解体

私は上下2段のクローゼット[†]を一竿持っています。ここには下着・肌着類・靴下等消耗品および小物を除いた私

† サイズ：奥行65cm × 横幅142cm × 高さ204cm

表1 持っている服(総ストック)の内訳

種 類	枚 数
ジャケット等	4
ブラウス、シャツ	24
Tシャツ/タンクトップ	28
スーツ上着	12
セーター/カーディガン	27
コート	9
その他上着	5
ズボン	7
ジーンズ	9
スーツボトム	3
スーツスカート	9
その他スカート	9
民族衣装等その他	3
合計枚数	149
合計重量(kg)	41.8

の衣類が詰まっています。さて、この中に、一体何着の服が入っているのでしょうか。数え上げてみました。

結果は、全部で149点(表1参照)、その総重量は41.8kgでした。一般的な私の年代の女性と比べて多いのか少ないのか全く分かりませんが、Tシャツやシャツ類といった半ば消耗品が多いとはいえ、個人的には意外にたくさん持っていたのだと驚きました。

これらのうち、この1年間に買った服は、タンクトップ1枚、セーター等2枚、民族衣装1枚、ズボン1枚、ジーンズ1枚、スカート1枚でした。このうち、タンクトップとズボンは、

この号で紹介している桑名市「クルクル工房」のリユースショップにて合計200円で買ったものです。これらは、総額で2万円弱。この他、サンダルを2足買っているので、私の年間の被服・履物消費支出は、消耗品を合わせて合計3万円くらいになります。

2004年全国消費実態調査(名古屋市分)によると、2人以上の一般世帯における1ヶ月あたりの被服および履物の消費支出は15,501円、年間では18万6,012円でした。平均世帯人員数で割ると、1人あたり1年間の被服・履物に関する支出は55,526円です。スーツや靴、そして消耗品であるところの下着・肌着等の購入を考えれば、おおそ想定できる範囲の支出であろうと考えられます[†]。この調査結果と比べれば、私の場合は、被服・履物の購入額は少ないほうであると言えるでしょう。

買う量が少ないのに、ストックが多いのだとしたら、それはすなわち捨てないからに他なりません。

3 「使わなくなった衣類」の考察

では、タンスの肥やしにしている(死蔵されている)服はどのくらいあったのでしょうか。総ストック量149点の服のうち、この1年以内に

† 調査概要：集計世帯数469世帯、平均世帯人員3.35人、平均有業人員1.48人、持家率73%、世帯主の平均年齢51.3歳、平均年間収入717万6千円、1ヶ月当たりの消費支出32万5,504円

†† 喪服や着物、パーティドレス等の礼服、民族衣装等の機会がなかっただけの衣類を除く

一度も袖を通していない服[†]は全部で39点(表2参照)あり、その重量は12.1kgでした。

廃棄物資源循環学会誌Vol.21, No.3の岩地氏の論文によると²⁾、2000年に調査された1家庭あたりの死蔵量は99点だったそうです。我が家は私を入れて3人家族なので、1人の死蔵量が39点というのは、ほぼ、平均的なところと言えるでしょう。ただし、この死蔵量は全ストック量の35%にあたるそうなので、そこから逆算される私のストック量は111点になります。やはりストック量は多いと考えられます。

なぜ、これらの服は死蔵されてしまったのでしょうか。これもあくまで私個人の場合ですが、所見は以下のとおりです。

◎かつては着ていたが、着なくなった服

- ・古くなって伸びたり色あせたりしているが、まだ物理的に着ら

表2 死蔵されている服の内訳

種 類	枚 数
ブラウス/シャツ	9
Tシャツ	6
スーツ上着	5
セーター等	5
コート	3
ズボン	2
ジーンズ	4
スーツスカート	5
合計枚数	39
合計重量(kg)	12.1

れると思って捨てられない服 ◎自分ではほとんど着ていない服 (中古、新品関わらず)

- ・妹や母、友人から譲られた服
- ・普段は着ないタイプの服なのに、たまに挑戦してみようと思いい立って買ったはいいが、やはり着なかった服
- ・安いために100円ショップやリユースショップで衝動買った服。家着にするつもりで買ったもやはり着ない
- ・通販で買った服。実際に届いてみるとイメージと違ったりしてあまり着ない
- ・イベント等でそろえたTシャツ等
- ・極寒地で緊急で買った防寒コート。最近の暖冬でほとんど出番なし

これらの服をじっくり眺めてみると、自分では服やファッションに関心がないつもりでいても、やはり好みははっきりとあることが分かります。気に入っていたり使い勝手の良いTシャツなどは、古くなっていても破れたりしているわけではないため、なんとなく捨てる踏ん切りがつかないという状況で多く死蔵されています。ただし、これらについては、服としての寿命は、ほぼ全うしていると言えます。一方、自分の好みに合致しない服は、ほとんど着られません。こちらについては、中古品は



写真3 死蔵されていた服（スーツ5着を除く）



写真4
死蔵品を除いて
隙間のできたク
ローゼット

ともかく、買ってから数回しか着ていない服になると、服の寿命が全うされていないため、単純にもったいなくて捨てられないという心理が働いています。そしていずれにしても「いつか着るかも」と思って、死蔵してしまうのです。前出の岩地論文で言及されているように、「もったいない」という気持ちを代償する手法を見出せないまま、保管されている典型でしょう。

4 それで「使わなくなった衣類」をどうする？

私の死蔵衣類のうち、ブラウスやスーツの大半は妹の服でした。彼女

は引越をする際に、自分の死蔵品を私にあずけたのですが、それをまた私が死蔵してしまっているのです。

ただ、これらの服を含めて、私の好みにあわなくて着ないまま死蔵している服については、まだまだ十分着られる服ですので、中古品としてリユースしてもらえたら良いなと思います。一般的に、集団資源回収などで集められた衣類は、ウエスや反毛にリサイクルされ、一部は中古品として再販され、残りがごみになります。中古衣料としての価値があるならば、資源回収に出せば、リユースされる可能性が大きいと言えます。だから集団資源回収に出せばいいと、分かってはいるのです。ではなぜ、それが難しいのか。実は自動車を持っていないということが理由なのです。

名古屋市では集団資源回収のほか、NPO中部リサイクル運動市民の会がスーパーマーケット等の駐車場を利用して開催しているリサイクルステーションで、衣類・繊維類の回収を行っています。しかし、それらの会場まで運ぶにあたり、可能なのは自転車に積める古新聞2束程度。かさ張る段ボールや重い衣類は、車がないと、なかなか運べないというのが実情です。私の住む地域は、名古屋市内でも特にこれらの資源回収チャンネルの配置バランスが悪い地域であるため、家庭内に死蔵することを嫌うと、ごみとして捨てられて

しまう傾向が高くなります。ときどき、昔のようなちり紙交換がきてくれたらなあ、と思います。

ともあれ、今回見つけてしまったこれらの死蔵衣類については、今後、車を出せる機会があれば、リサイクルステーションに持って行くか、市内の古紙・古繊維問屋に直接搬入させてもらおうと思っています。

その他、家庭内での衣類ばろの利用としては、Tシャツや破れたシャツのような薄い綿地の繊維は25cm角程度に切り、台所や風呂場の家庭内の最も汚れた場所の掃除に利用しています。ただし、これもケチってたくさんは使わないため、少々オーバーストック気味です。



写真5 古紙や繊維類が可燃ごみとして捨てられている



写真6 ウェス用に貯めてあるTシャツ等の端切

余談ですが、このクローゼットには、多くのハンガーも死蔵されていました。大半はクリーニングハンガーで、針金ハンガーが26本、プラスチックハンガーが32本でした。これらはクリーニング店に引きとってもらいました。最近のクリーニングチェーンでは、プラスチックハンガーをリユースしているお店が多く、また針金ハンガーは缶類等と一緒に資源回収に出すことも可能のようです（回収団体によります）。

5 まとめ——名古屋市の衣類のごみ事情とあわせて

今回発見された死蔵衣類を、すべて何らかの資源回収に出せば、私は名古屋市に12kgもの廃棄物（資源ごみ）を排出することになります。

では、そもそも名古屋市ではどのくらいの衣類がごみとして捨てられ、また、資源として回収されているのでしょうか。2009年度名古屋市環境局事業概要に基づき、2008年度の名古屋市廃棄物処理実績量を表3にまとめました。

これによると、名古屋市の2008年度の一般廃棄物総排出量は86万5,621t、このうちごみ量は66万1,431t、資源量は20万4,190tです。ごみ量のうち、事業系一般廃棄物ではない家庭系ごみは、市収集可燃ご

十 実際には搬入ごみには事業系ごみ以外に、火事等で発生したごみや引っ越し等のために大量に持ち込まれた家庭系ごみも含まれる。しかし、今回は便宜的に市収集ごみ量を家庭系ごみ量とした

みと市収集不燃ごみです[†]。これらに2009年度家庭系ごみ細組成査[†]を用いて、衣類ごみ量を計算したところ、1万1,124tが捨てられたと推計されました^{††}。

一方、2008年度の繊維類の資源回収実績では、集団資源回収では2,963t、リサイクルステーションでは645t、計3,608tが回収されました。ごみになってしまった衣類量に対して、資源として回収された衣類はおよそ3分の1に留まっています。

これより、衣類はもったいなくてなかなか捨てられず、死蔵されがちと言われながらも、やはり多くがごみとして捨てられてしまっていることが分かります。今後は、さらなる資源回収のチャンネルの設置、特に、車を持っていない家庭でも排出しやすい回収方法が望まれます。そして、

その回収によって衣類がリユースあるいはリサイクルされることを、積極的に市民にPRしていくことが必要でしょう。

表3 名古屋市廃棄物量内訳（2008年度）

■廃棄物		重量(t)
ごみ	市収集可燃ごみ	373,500
	搬入可燃ごみ	190,930
	市収集不燃ごみ	54,948
	搬入不燃ごみ	31,515
	粗大ごみ	8,803
	環境美化ごみ	1,735
ごみ量合計		661,431
資源	市収集資源	83,708
	集団資源回収	114,148
	リサイクルステーション	6,334
資源量合計		204,190
●総排出量(ごみ+資源)		865,621

※資源回収量については、大規模事業者の自主回収等の民間自主回収が計上されていない。これらを加えると、平成20年度の資源回収量は合計37.7万tとされる。その場合の総排出量は103.8万tである

† 2009年度ごみ質分析委託（企）ごみ細組成等調査報告書（概要版）、財団法人東海技術センター（2010）。本来は、名古屋市データも2009年度のものを利用すべきのだが、まだ詳細データが取りまとめられていなかったため、名古屋市実績データとの年度は異なる組成調査結果を便宜的に利用した

†† 細組成調査では、大分類：繊維類、細項目：衣類とその他衣類繊維類にわけて集計している。このうち、可燃ごみでは衣類が全可燃ごみの2.11%、その他繊維類が2.29%、不燃ごみでは衣類が0.59%、その他繊維類が2.65%であった。一方、事業概要にある組成調査に基づく家庭系可燃ごみ中の繊維類の割合は5.44%でその量は20,318.4t、不燃ごみ中の繊維類の割合は13.78%でその量は7,571.8tである。これらの量には、それぞれ細組成調査における衣類とその他衣類が含まれることから、衣類：その他衣類の割合を乗じて、家庭系可燃ごみおよび不燃ごみ中の衣類のみの混入量を算出した。可燃ごみ中には9,743.6t、不燃ごみ中には1,378.8tの衣類が含まれていると推計された

参考資料

- 1) 酒井順子：容姿の時代、幻冬舎文庫、p.66（2004）
- 2) 岩地加世：“衣”との付き合い方、廃棄物資源循環学会誌、Vol.21, No.3, pp.132-139（2010）